CloseUp.1

農業女子という選択

結婚、後継者、新規就農。彼女たちが農業を始めたきっかけはさまざま。しかし、地域、環境、食を支える農業のプロでありたいという意識は同じ。生き生きとした彼女たちの日常を紹介する。

ポジティブになれるつながりを自分で作る

Case 01

菅原由美さん

花泉町永井

profile すがわら・ゆみ
1985年花泉町生まれ。市内の高校を卒業。販売員、医療事務を経て2007年から有限会社かさい農産のスタッフとして働く。

「野菜づくりは子育てに似ている」と話す由美さん。育てる側の都合を押し付けるのではなく、育つ側の良さを引き延ばすことが大切なのだという。

有限会社かさい農産で、野菜の栽培と営業を中心に働いている。土壌分析、接客、事務とあわただしい毎日を送る。

家に帰れば4児の母として家族と向き合う。どんなに忙しくても相手の気持ちに寄り添うことを信条にしている。

「コミュニケーションから学ぶことは多い。思いが相手に伝わるうれしさはひとしお。これからも得意分野を伸ばしたい」と前を向く。

3つのこだわり／Three Rules

1_相手の立場で物事を考える／2_体が資本。健康は意識を前向きにしてくれる／3_くよくよしない。笑顔を絶やさない

❶苦手な人も食べられると評判のニンジン「ベータリッチ」❷コツコツ学んで資格の取得を狙う

子育ても仕事も家事も全部楽しむつもりで

Case 02

菅原真美さん

大東町大原

profile すがわら・まみ
1990年花泉町生まれ。市内の高校を卒業後、販売員を務める。雅継さんと2011年に結婚。2児の母として育児と酪農に励む。

「自然と動物が好き。牛の世話も草刈りも楽しい」と笑顔を見せる真美さん。

結婚を機に酪農の世界に足を踏み入れた。実家は非農家。初めて子牛の死に立ち会ったときは心が震えたという。就農から4年。二人の子宝にも恵まれた。

育児に追われる合間に自己啓発本で知識を深めたり、トラクターとトラックの免許取得の勉強をしたりと、地道な努力を欠かさない。「牛舎をきれいにすると乳量が増える。まだ、できることは少ないけれど、これからも夫との共同作業を楽しみたい」と意気込んだ。

3つのこだわり／Three Rules

1_毎朝しぼりたての牛乳を飲む／2_夫と二人の時間をつくる／3_食事のときはテレビを消して、家族との対話を楽しむ

❶しぼりたての牛乳は甘くて濃い❷愛娘の真優花（まゆか）ちゃん（3つ）と優里花（ゆりか）ちゃん（1つ）

採取したエッセンスを暮しに循環させる

Case 03

小山亜希子さん

川崎町薄衣

profile おやま・あきこ
1984年川崎町生まれ。大学卒業後、花巻市で営業職に就く。2011年にUターン。祖父母と共にトマト栽培に取り組む。

高齢の祖父母を助けたい。「わたしがいなくても会社は回る。けれど、祖父母の畑にはわたしが必要だと思った」亜希子さんは花巻市で働いていた当時を振り返った。

考えた末、会社を退職。祖父母の暮らす川崎町で、全く経験のない農業の道を歩み出した。

就農から5年目。3棟のハウスで汗を流す。農業を通じ、自分が生きていることを実感するという。栽培だけでなく、自慢のトマトをカフェに売り込み、メニューに加えてもらった。仲間が付けた愛称はトマガール。「気に入っている」とほほ笑む。

3つのこだわり／Three Rules

1_ゆっくりコーヒーを飲む／2_好きなものに囲まれた空間をつくる／3_直射日光は大敵。農業女子といえど美白な肌を目指す

❶お気に入りのツールボックス。レインブーツは他の農業女子とお揃い❷苔玉（こけだま）は観賞用植物の一つ

オンとオフを使い分けて短い時間を充実させる

Case 04

藤森ゆかさん

藤沢町藤沢

profile ふじもり・ゆか
1992年室根町生まれ。高校卒業後、有限会社かさい農産に勤務。学さんと2013年に結婚し、ふじっ子ファームに就農した。

子供の頃「祖父母の畑で大きく育って行く野菜をワクワクしながら見守った」と話すゆかさん。

結婚を機に、藤沢町のふじっ子ファームに就農。葉物野菜を中心に12棟のハウスを切り盛りしている。

「毎日、雑草と戦っている」と苦笑する一方で「年を追うごとに、コツがつかめそうなところが楽しい」とも。

前職で土づくりの大切さを痛感。販路の拡大、栽培の難しさなど悩みは尽きない。そんなときは音楽で気持ちをリフレッシュ。「家族で楽しめる農業を目指したい」とはにかんだ。

3つのこだわり／Three Rules

1_早寝早起き。質の高い睡眠を／2_大好きな音楽でモチベーションをアップ／3_友達や家族との時間を大切にする

❶せんていバサミは収穫に欠かせない相棒。刃の管理は怠らない❷休日の息抜きは愛犬ポコとの散歩

アイデアが生まれる心地よいスピード感が好き

Case 05

阿部好美さん

平泉町

profile あべ・よしみ
1981年平泉町生まれ。大学卒業後、仙台市で働く。2008年に峰岸ファームの社長に就任。以来、直営店「農家茶屋」を経営する。

有限会社峰岸ファームの若き社長として日々奮闘する好美さん。自慢のコメを加工したどぶろくを直営店で販売する。

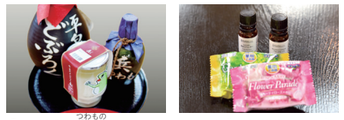
クッキー、生めん、アイスなどコメを原料にしたヒット商品の立役者。六次産業は食品加工・流通販売を展開する農業の経営形態の一つだ。

「商品開発には表示の制限やJAS認証など、多くのハードルがある。必死に勉強しています」と静かに語る。

就農から7年目。仕事と家事の両立、会社を支える人材育成など、今後の課題を分析。夫の勝彦（かつひこ）さんと二人、経営者として舵（かじ）を取る。

3つのこだわり／Three Rules

1_休日はボーっとする時間を作る／2_ゆっくりと風呂に入ったり、アロマオイルを使ったりしてリラックスする／3_スポーツで汗を流す



❶どぶろく「兵（つわもの）」。ケロ平パッケージ版は300セット限定で6月29日発売❷アロマは質の良い睡眠を促す

◀ 3つのこだわり

働く女性として実践していること。心地よく暮らすためのアイデアを聞いた。生き生きと毎日を過ごすためのヒントが隠されているかもしれない。

◀ 農業女子のオンとオフ

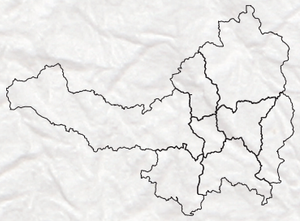
❶は仕事で❷はプライベートで大切にしているモノ・コトを聞いた。農業女子の日常と休日が垣間見える。

一関の農業を知る　およそ10人に1人は農業に携わる

2010年の農林業センサスによれば、一関市の総面積（125,625㌶）に占める耕作面積の割合は12.2%（18,560㌶）。このうち田耕地面積は約6割（12,288㌶）を占めている。農業就業者の数は、市人口（約12万人）の1割を占める1万4千人。

主な農産物は、コメを中心に、大豆、飼料作物など。野菜では、ダイコン、トマト、ハクサイ、キュウリ。花き類でキク。畜産では豚、肉用牛の生産が盛ん。

地理的には、北上川流域の平地が多い西部では、水稲を中心に肥育牛や野菜、花き。緩やかな丘陵地が多い東部では、野菜、花きを中心に、水稲、酪農、繁殖牛が生産されている。



Voice　目指すのは一関だからこそ出来る農業

小野寺晃一さん

profile おのでら・こういち
農林部政策推進監として地産外商や6次産業化の支援に取り組む

農業は一関の基幹産業。市では、農畜産物の高付加価値化を目指し、6次産業化、販路拡大など農業所得の向上に取り組んでいます。たとえば、一関で新たに就農を目指す人を対象に、管内の先進農家や農業法人などでの研修を実施。

また、農村を持続させるため、伝統文化や風景を生かし、都市農村交流や特産品開発に取り組む地域も支援しています。詳しくは農政課、または各支所産業経済課まで。

これからも集落営農組織を育成し、農業・農村の活性化に努めます。

㊐本庁・農政課☎㉑8426　花泉・産経☎㊷2908　大東・産経☎㉒4081　千厩・産経☎㊸3962
東山・産経☎㊼4523　室根・産経☎㊹2111　川崎・産経☎㊸3601　藤沢・産経☎㊸5317